秋田県北地域における
これまでの日沿道開通による効果

平成27年7月

秋田県北地域の今後の地域展開に関する意見交換会とりまとめ

参加メンバー

能代市長	齊藤　滋宣
北秋田市長	津谷　永光
大館市長	福原　淳嗣
秋田経済同友会代表幹事	那波　三郎右衛門
能代商工会議所会頭	広幡　信悦
大館商工会議所会頭	中田　直文
大館青年会議所理事長	武田　喜胤
秋田県山本地域振興局長	菊子　正稔
秋田県北秋田地域振興局長	佐藤　博
東北地方整備局能代河川国道事務所長	遠藤　平

はじめに

平成27年2月18日、秋田経済同友会の主催により、沿線の市、経済団体、企業、地域振興局等参加のもと、「秋田県中央地区と県北地区との地域連携シンポジウム」が開催されました。シンポジウムでは、県内産業は各分野で高度化の努力が続けられ地域の発展に寄与しているものの、少子高齢化の進展の中で地域が発展していくためには、これまで以上に地域戦略の構築と地域連携の強化が必要であること、そして、このためには日沿道の開通が重要な要素であることが強く認識されました。

このような折、日沿道の中で唯一整備に着手されていなかった現道活用区間の二ツ井白神～小繋間において、能代地区線形改良（二ツ井白神IC部分の線形改良）が今年度新規事業化となり、現道活用区間も含め日沿道の全 IC 間で整備が始まりました。地域戦略の構築を議論する適期と捉え、先の地域連携シンポジウムの参加メンバーを中心に、日沿道の完成を見据え県北地域が連携した地域展開方策について本年5月より議論を開始しました。

本とりまとめは、日沿道の開通を見据えた地域戦略の構築に取り組むに際し、まず最初に「これまでの日沿道の開通でどのうような効果があったか」について整理・分析をおこなったものです。これをもとに、県北地域が連携し、これからの日沿道の開通を最大限活かした効果的な地域展開方策の立案、実行につなげてまいります。

秋田県北地域の今後の地域展開に関する意見交換会の進め方

ｽﾃｯﾌﾟ1：「これまでの日沿道開通でどのような効果があったか。」 について整理・分析
ｽﾃｯﾌﾟ2：この分析結果をもとに、今後の開通を見据えた県北地域での連携した地域展開方策（産業面、観光振興面など）を議論

5月22日

第1回意見交換会：「これまでの日沿道開通による効果」について議論

↓

意見交換を踏まえて、参加メンバーが連携して、これまでの整備効果の整理と分析を実施。

7月1日

第2回目意見交換会：「これまでの日沿道開通による効果」の整理・分析

第3回目以降：「地域が連携した発展方策」についての議論
＋
意見交換結果を、参加機関・団体の具体的な取り組み、連携した取り組みに活かしていく。

とりまとめ内容

要旨 ---------- 3

1. これまでの整備経緯 ---------- 6

2. 沿線地域の変化 ---------- 10
2．1 経済社会統計データからみた地域の変化 ---------- 10
1）製造品出荷額 ---------- 10
2）工業団地への進出企業数 ---------- 11
3）観光客流動 ---------- 12
4）通勤通学流動 ---------- 14
5）買い物流動 ---------- 15
6）交通量 ---------- 16
7）高速バス系統 ---------- 17
2．2 地域に大きなインパクトをもたらしている開通効果 ---------- 18
2．2．1 直接効果 ---------- 18
1）三次医療施設への救急搬送ルート ---------- 18
2）県北内陸部への石油製品搬入ルート ---------- 19
2．2．2 間接効果 ---------- 20
1）大館市における企業進出・設備投資 ---------- 20
2）秋田県北地域のリサイクル産業の発展 ---------- 27

3. これからの日沿道開通を最大限活用した地域展開方策の立案、実行に向けて --- 31
3．1 これまでの開通効果の整理・分析結果から見えた地域展開方策の方向性 --- 31
3．2 既に始まっている新たな地域展開 ---------- 32
1）『エネルギーのまち』の構築（能代市） ---------- 32
2）東京オリンピック・パラリンピック授与メダルへの
リサイクル回収金属の活用提案（大館市） ----- 33
3）新たな企業進出・設備投資の受け入れ環境整備（工業団地拡張）（大館市） -- 34
4）台湾からの誘客への取り組み（大館市） ---------- 34
5）定住・交流の拠点化（北秋田市） ---------- 35

※今回とりまとめた「これまでの日沿道開通による効果」は、今後の開通を見据えた地域展開方策の立案・実行に県北地域で連携して取り組んでいくことに活用する目的で整理したものです。 このため、以下のような点に留意してとりまとめています。

・県北地域全体で整理・分析しました。

・直接的な開通効果よりも、間接的な効果や開通により沿線地域にどのような変化があったかに力点をおいて整理しました。

・また、間接的な効果については、相乗効果を発揮している要因（地域の特性や資源、地域における施策・取り組み）にも着眼して整理しました。

要旨

1. これまでの整備経緯

■立ち遅れている秋田県北地域の高規格幹線道路

・秋田県北地域の高規格幹線道路の整備は県内でも特に遅れています。秋田～能代間がつながったのは平成14年、大館と東北道とつながったのは平成25年のことです。現在も能代市二ツ井白神 IC ～大館市二井田真中 IC 間32kmは未開通の状況です。現在の県北地域整備率は64%であり、今も他地域より大きく立ち遅れています。

■早期ネットワーク効果発現を目指した現道活用方針の採用

・早期に利用可能な道路、早期にネットワーク効果が発現できる道路とするため、二ツ井白神 IC ～あきた北空港 IC 間 18km について現道活用方針（既存道路の局所的な改良により、安全性、定時性、速達性の向上を図る方針）を平成23年度に受け入れ、秋田県自らも現道活用区間の一部区間の整備（鷹巣西道路）を平成24年度から進めています。

■日沿道の全 IC 間で整備が始まる

・このような折、これまで唯一整備に着手していなかった現道活用区間の二ツ井白神 IC ～小繋 IC 間において、当該区間の交通の安全性と円滑性の向上を図るため、平成27年度から「国道7号能代地区線形改良」（二ツ井白神 IC 部分の線形改良事業）の着手が決定し、現道活用区間も含め日沿道の全 IC 間で整備が始まることになりました。

2. 沿線地域の変化

2. 1経済社会データからみた地域の変化

■開通沿線の製造品出荷額、企業進出数は増加

・県内の製造品出荷額は減少傾向（過去20年で約30%減少）が続いていますが、能代市と大館市の製造品出荷額は、開通前よりも開通後のほうが多くなっています。また、能代工業団地、大館市内の大館・大館第二・二井田工業団地の立地企業数は年々増加しています。これらの増加は、日沿道の開通のみならず、地域特性・資源、産業振興や誘致の取り組みなど様々な要因が相まった結果ですが、開通地域と未開通地域、あるいは開通前後の比較から、日沿道の開通も重要な要因の1つになっているといえます。

■日常諸活動の広域化

・平成18年に秋田～能代（能代東 IC ）間がつながった能代市では、秋田市をはじめ沿線からの通勤通学者が増加しています。さらに、能代市への通勤通学者は平成7年には秋田市が最南でしたが、平成22年には由利本荘市や横手市からの通勤通学者があるなど、通勤通学流動や買い物流動が広域化しています。

2. 2地域に大きなインパクトをもたらしている開通効果

2. 2. 1直接効果

開通区間は県北地域の生活を支える生命線になっています。

■三次医療施設への救急搬送ルートに

・県北地域には地域救命救急センターがないため、秋田市あるいは弘前市の第三次

医療施設への救急搬送が必要になります。能代市や大館市からの域外三次医療施設への救急搬送は、開通区間が救急搬送ルートになっています。

■県北内陸部への石油製品搬入ルートに

・ガソリンなどの石油製品は冬期生活の生命線です。県北内陸部への石油製品は、青森港や八戸港から国道7号矢立峠や狭隘で線形の厳しい国道103号を使って搬入されていましたが、平成25年11月に大館北小坂北間開通後は、開通区間が搬入ルートになっています。

2. 2. 2間接効果

■大館市における企業進出・設備投資

・従前より様々な企業誘致の取り組みを進めてきた大館市では、平成23年度に日沿道大館北小坂北間の開通時期が公表されて以降、企業の進出や設備投資が急増しました。日沿道と東北縦貫道のダブルネットワークの形成や北東北主要都市の重心に位置する大館の立地条件を利点とする企業の進出や設備投資を受けて、これらの関連企業や関連産業の進出、さらには能代方面・あきた北空港方面の日沿道の延伸開通を見越した企業の進出によって、大館での産業集積の動きは現在も続いています。平成24～26年度の3年間で、33社が44事業所等を新増設し、この投資合計額は約339億円、直接的な経済波及効果は約674億円、パートも含めると369人の新たな雇用が生まれています。

■秋田県北地域のリサイクル産業の発展

・「秋田県北部エコタウン計画」のもと、鉱山関連基盤を活かした家電リサイクルやリサイクル製錬拠点形成、林業からの廃木材と廃プラスティックを活用した新建材製造、石炭火力発電所からの石炭灰と廃プラスティックを活用した二次製品製造など、県北部9市町村の地域資源を活かし地場産業が連携して環境・リサイクル産業の創出に取り組み、環境・リサイクル関連企業の製造品出荷額は毎年堅調に増加しています。特に、日本国内のみならず東南アジアからも携帯電話等廃棄物を集荷した有価金属のリサイクルは、日本のレアメタルの自給向上と国際供給リスクの低減に貢献しています。日沿道は、秋田港など廃材等原材料の集積地と県北の環境・リサイクル企業所在地とを結ぶルートとして、また、互いに連携して事業展開している県北の環境・リサイクル企業所在地間を結ぶルートとして、県北のリサイクル産業の発展を支えています。

3. これからの日沿道開通を最大限活用した地域展開方策の立案、実行に向けて

3. 1これまでの開通効果の整理分析結果から見える地域展開方策の方向性

・開通沿線地域の変化を見れば、産業面や広域観光面で特に大きな変化が現れています。今後の日沿道の開通を見据え、特に産業面や広域観光面で県北地域が連携して施策や取り組みを展開し、これまで以上に大きな相乗効果の発揮を目指します。このとき、

①地域の特性や資源を武器にする（水や風などの自然条件、地場産業、JAXA 能代ロケット実験場の技術、産業出荷額が県内で唯一減少していない県北地域のポテンシャル）

②あらゆる階層で連携して取り組む（県北地域内のみならず近隣県・道を含めて）

③能代港や大館能代空港も含めた県北社会資本ストックを総活用する
ことで、「企業がここに進出したい理由」や「観光客がここに来て滞在したい理由」を生み出していきます。

・また、日沿道開通地域では、通勤通学や買い物といった日常諸活動の広域化が現れています。このことは、例えば、日沿道開通により、秋田県のセールスポイントである教育を武器に、「子供は秋田県、親は単身赴任」というような新しい住まい方の提案も可能になることを示しています。定住人口や交流人口の拡大にも着眼していきます。

・今後の意見交換会では、上述のような着眼のもとで、日沿道開通を最大限活用した地域展開方策の立案、実行に向けて取り組みます。

3．2既に始まっている新たな地域展開

実現を目指して始まっている新たな展開が既に県北各地にあります。

■『エネルギーのまち』の構築（能代市）

・能代市では、再生可能エネルギーのポテンシャルを活かして、「エネルギーで活力をつくり、エネルギーを自給できる『エネルギーのまち』」を目指す中、再生可能エネルギーで災害時でもとまらない電力供給システムを構築して安全で安心して生活できるまちづくりにも取り組もうとしています。今後の日沿道の開通を見据えると、「災害時でもとまらない電力」＋「日沿道」＋「能代港」＋「大館能代空港」をセットにして安全性信頼性と利便性を兼ね備えた事業環境としてセールスを行うことにより、新たな産業創出や企業立地につなげていくことが可能となります。

■東京オリンピック・パラリンピック授与メダルへのリサイクル回収金属の活用提案（大館市）

・平成27年5月、小型家電リサイクル法で定める認定事業者が所在する東北3市（大館市、八戸市、一関市）で、リサイクル回収金属を東京オリンピック・パラリンピックのメダルに使う提案を3市連携して国や組織委にしていくことを決定しました。このような提案は、日沿道をはじめ、北東北三県での広域回収を支える道路ネットワークがあるからこそ可能な展開です。

■新たな企業進出・設備投資の受け入れ環境整備（工業団地拡張）（大館市）

・企業進出や設備投資が続く大館市では、平成27年2月に大館第2工業団地が完売となり、隣接3工業団地（合計 100ha ）がすべて完売しました。大館市では、平成25年度より大館北 IC 隣接地にオーダーメード方式で釈迦内産業団地の造成を進めているほか、秋田県でも、平成25年度より大館・大館第2工業団地の拡張（23 ha ）に着手しています。

■台湾からの誘客への取り組み（大館市）

・大館市の台湾への観光誘客セールスにおいて、「秋田犬」、「きりたんぽ鍋」、「森吉山の樹氷」、「白神山地」など秋田県北部が誇る資源や宝のニーズが高い。
日沿道の開通を見据え、あきた北空港を基軸とした観光ルートの提案が可能になるため、広域連携に取り組むことができます。

■定住・交流の拠点化（北秋田市）

・鷹巣大館道路で北秋田市と大館市が結ばれれば、大館市の工業団地への時間が大幅に短縮されます。北秋田市に住み、大館市で働くことを見据え、定住促進に向けた住みよい街づくりを進めていきます。

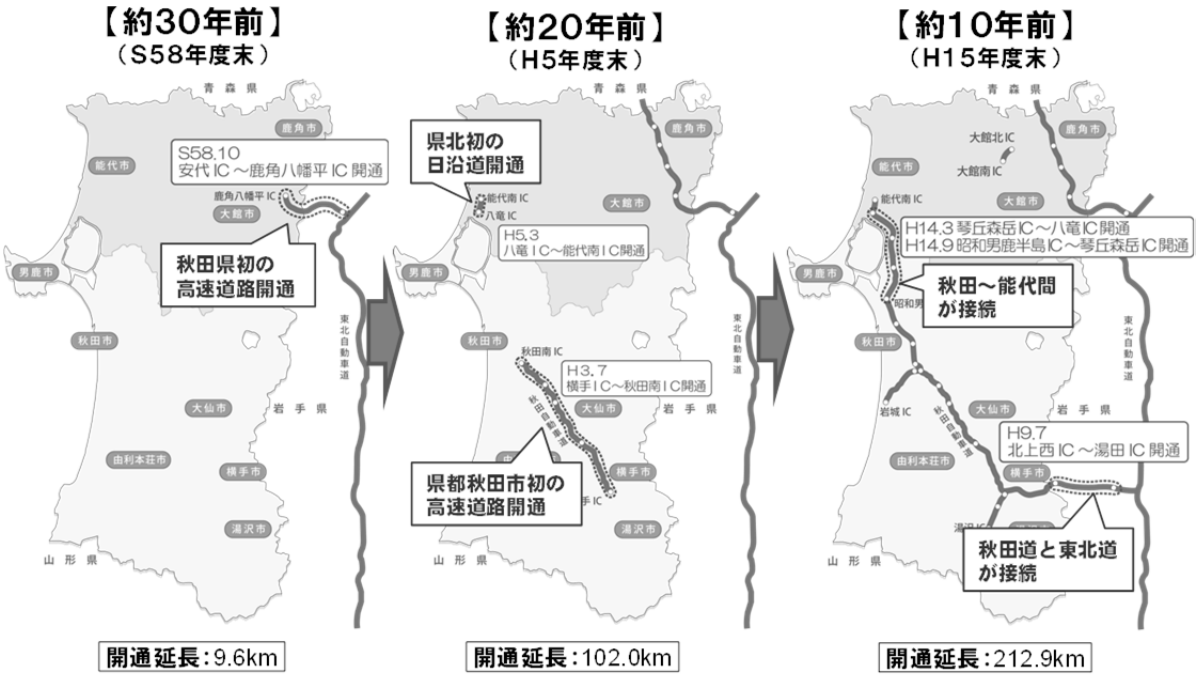
今後、日沿道が繋がれば、あきた北空港 IC に近接する北秋田市民病院で高度医療技術を持つ医師により、県内などの若手医師の育成が可能になります。

1．これまでの整備経緯

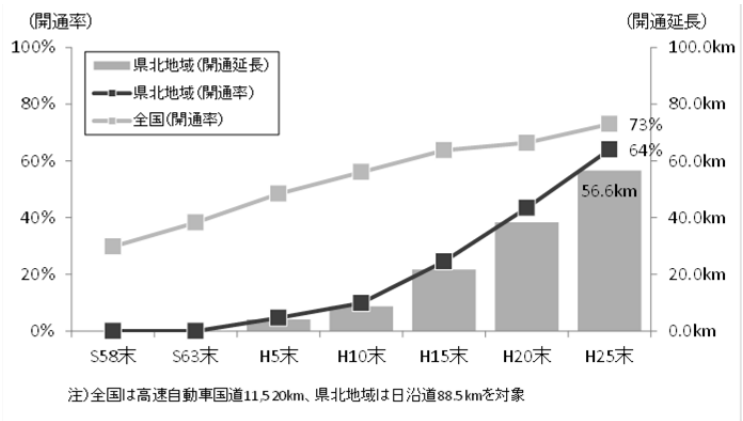
■立ち遅れている秋田県北地域の高規格幹線道路の整備

秋田県北地域の高規格幹線道路の整備は県内でも特に遅れています。秋田～能代間がつながったのは平成14年、大館と東北道とつながったのは平成25年のことです。現在も能代市二ツ井白神IC～大館市二井田真中 IC 間32kmは未開通の状況です。現在の県北地域整備率は64％であり、今も他地域より大きく立ち遅れています。

▼秋田県における高速道路の整備経緯

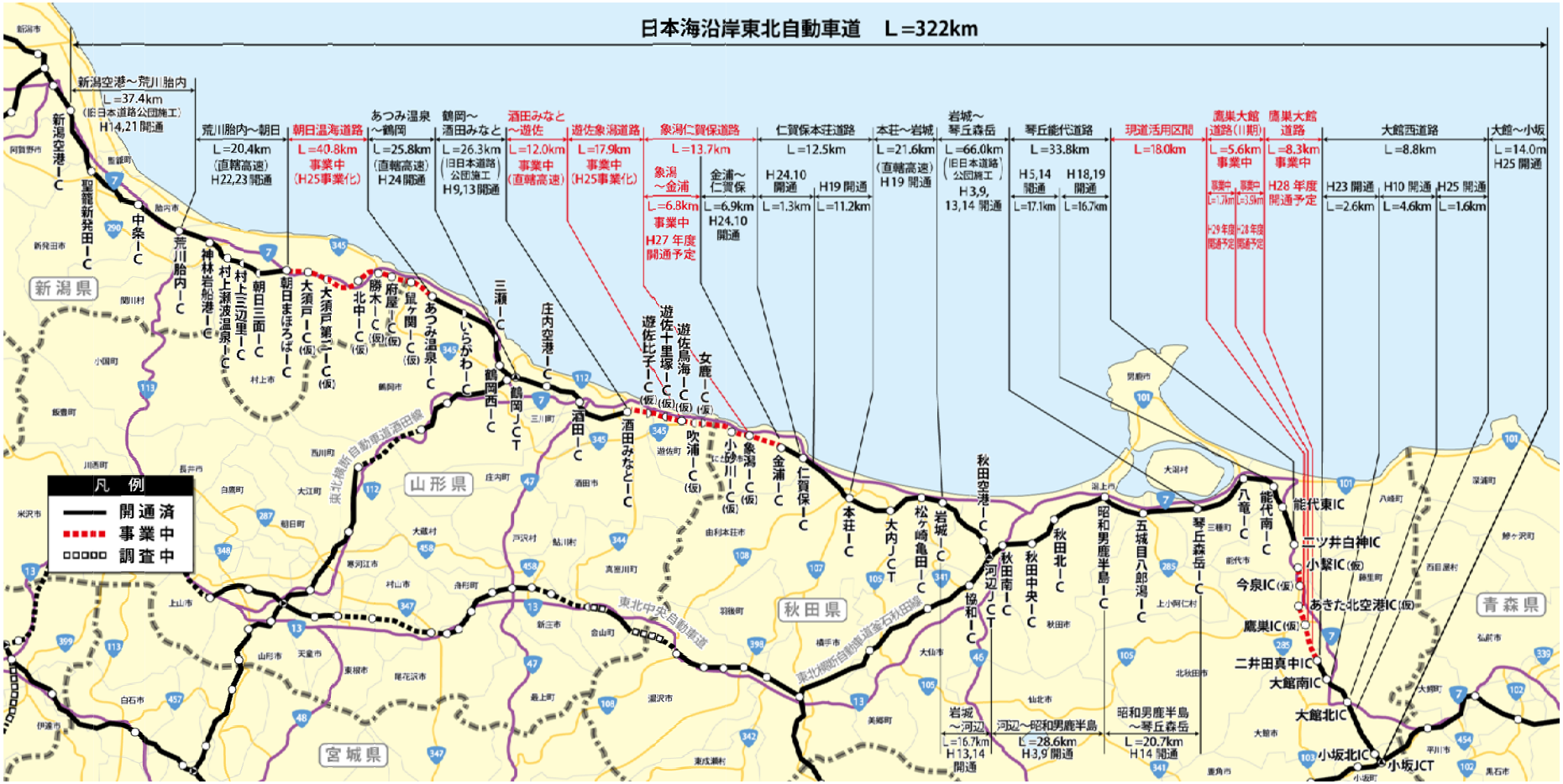


▼高速道路開通率の推移



注）全国は高速自動車国道11,520km、県北地域は日沿道88.5kmを対象

▼日本海沿岸東北自動車道全体状況



■早期ネットワーク効果発現を目指した現道活用方針の採用

早期に利用可能な道路、早期にネットワーク効果が発現できる道路とするため、二ツ井白神 IC～あきた北空港IC間18kmについて現道活用方針（既存道路の局所的な改良により、安全性、定時性、速達性の向上を図る方針）を平成23年度に受け入れ、秋田県自らも現道活用区間の一部区間の整備（鷹巣西道路）を平成24年度から進めています。

▼現道活用区間の概要

《平成22～23年度　計画段階評価》

・意見聴取（知事、市町村）、ヒアリング（関係機関、企業）、住民アンケートが実施された

【主な意見聴取結果】
○秋田県知事：計画段階評価に係る「日本海沿岸東北自動車道 二ツ井白神～あきた北空港」については、現道活用案で進めることに同意します。
○その他主な意見：冬期交通の安全性を確保した、低コストで早期整備効果が発現できる道路がよい。

《平成23年8月　整備方針決定》

・沿道住民への利便性が高く、事業費が安価で、早期に利用が可能な現道活用案を選定。

◎整備方針：小繋IC（仮）～今泉IC（仮）間は別線を新設し、その他の区間は現道の局所的な改良により、安全性、定時性、速達性の向上を図る。

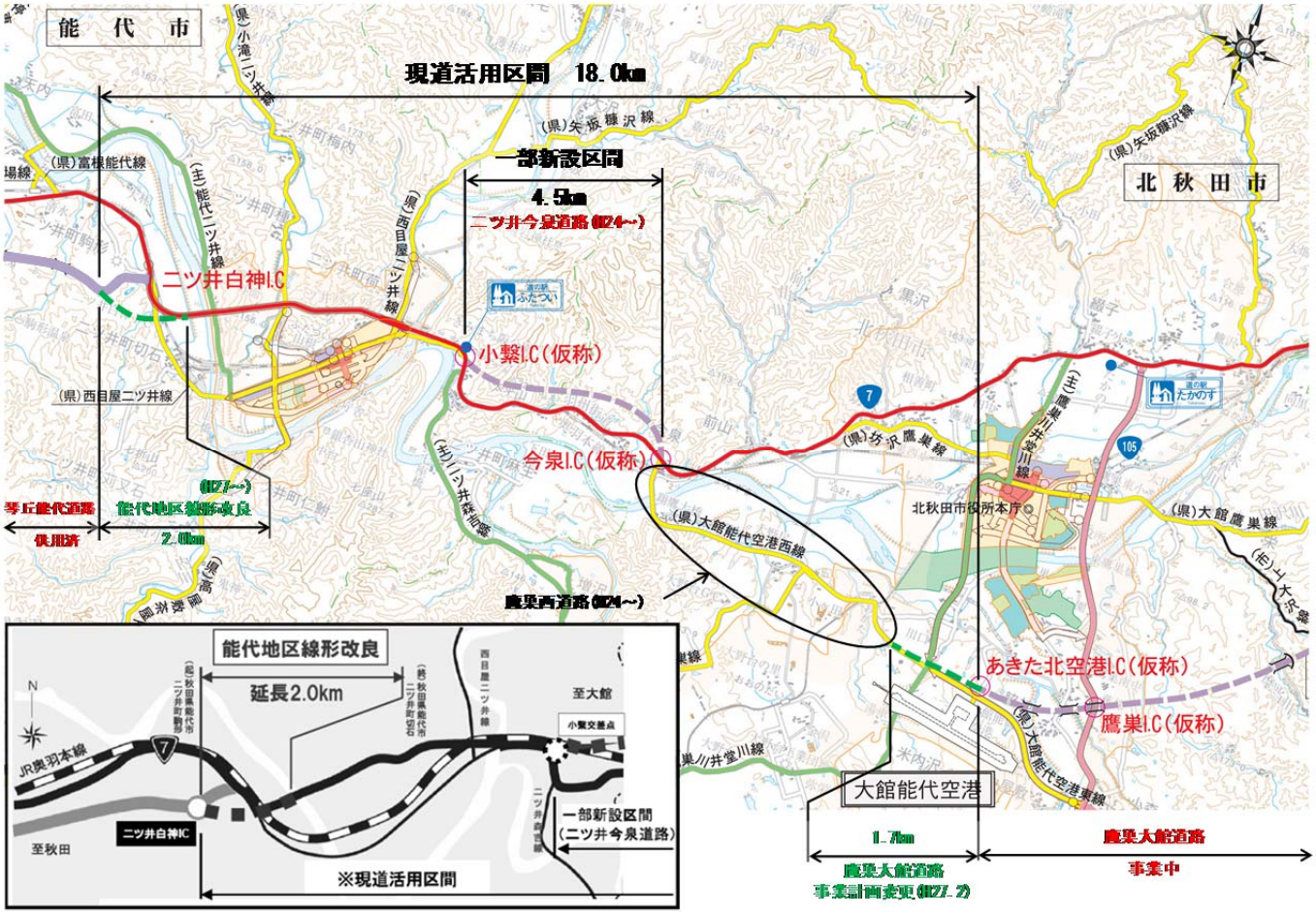
《進捗状況》

平成24年度～　国交省 小繋IC（仮）～今泉IC（仮）の別線整備区間 着手（二ツ井今泉道路）
平成24年度～　秋田県 今泉IC（仮）～あきた北空港IC（仮）の現道活用区間 着手（鷹巣西道路）
平成27年度～　国交省 二ツ井白神IC～小繋IC（仮）の現道活用区間 着手

■日沿道の全 IC 間で整備が始まる

このような折、これまで唯一整備に着手していなかった現道活用区間の二ツ井白神 IC～小繋 IC 間において、当該区間の交通の安全性と円滑性の向上を図るため、平成27年度から「国道7号能代地区線形改良」（二ツ井白神 IC 部分の線形改良事業）の着手が決定し、現道活用区間も含め日沿道の全 IC 間で整備が始まることになりました。

▼現道活用区間全体状況



2. 沿線地域の変化

2. 1経済社会統計データからみた地域の変化

県内の製造品出荷額は減少傾向（過去20年で約30%減少）が続いていますが、能代市と大館市の製造品出荷額は、開通前よりも開通後のほうが多くなっています。また、能代工業団地、大館市内の大館・大館第二・二井田工業団地の立地企業数は年々増加しています。これらの増加は、日沿道の開通のみならず、地域特性・資源、産業振興や誘致の取り組みなど様々な要因が相まった結果ですが、開通地域と未開通地域、あるいは開通前後の比較から、日沿道の開通も重要な要因の1つになっているといえます。

1）製造品出荷額

県内の製造品出荷額の推移をみると、県全体では減少傾向にあり過去 20 年間で約 30%の減少となっています。能代市と大館市の製造品出荷額を開通前後で見てみると、両市とも開通後のほうが多くなっています。

▼市町村別製造品出荷額の推移

（単位：億円）

市町村名	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H25/H6
秋田県計	15,902	16,733	16,580	17,349	16,303	16,201	17,070	14,933	13,352	13,014	14,008	14,026	15,856	16,615	15,558	11,848	13,176	12,110	11,236	11,065	0.696
秋田市	3,939	4,240	4,359	4,540	4,308	4,262	4,355	3,952	3,227	3,201	3,473	3,304	3,222	3,488	3,270	2,748	2,990	2,348	2,647	2,622	0.666
能代市	788	747	741	732	603	598	547	479	446	482	483	516	503	877	1,063	946	855	725	756	753	0.956
横手市	1,467	1,485	1,504	1,563	1,509	1,411	1,482	1,117	976	1,002	1,225	1,192	1,367	1,394	1,315	984	1,390	1,310	1,194	1,183	0.806
大館市	847	861	886	885	844	842	868	894	853	873	911	922	955	1,059	1,094	1,083	1,054	1,012	1,071	1,085	1.280
男鹿市	297	297	296	X	123	X	113	97	X	80	X	124	128	111	113	88	78	178	135	109	0.367
湯沢市	996	1,041	954	1,003	959	1,001	1,004	970	852	835	840	787	814	869	1,008	742	759	545	694	622	0.625
鹿角市	326	312	307	343	329	300	302	267	223	223	226	219	238	241	227	197	211	220	223	236	0.724
由利本荘市	X	1,300	1,273	1,447	1,354	1,250	1,579	1,625	1,277	1,444	1,394	1,428	1,589	1,603	1,446	1,088	1,144	1,134	976	1,007	-
潟上市	770	791	723	725	595	578	560	457	396	408	472	451	412	353	348	254	269	255	238	271	0.353
大仙市	898	902	936	989	970	945	1,002	863	894	842	1,026	1,185	1,348	1,134	1,084	604	728	678	606	599	0.667
北秋田市	428	466	428	426	392	365	355	329	291	286	298	303	307	317	299	218	264	256	263	260	0.606
にかほ市	2,411	2,756	2,690	2,909	2,892	3,134	3,500	2,576	2,629	2,191	2,335	2,335	3,683	3,801	3,040	1,914	2,379	2,421	1,418	1,238	0.514
仙北市	243	230	223	227	209	201	200	185	162	176	187	187	183	178	175	132	134	145	132	154	0.636
小坂町	228	262	266	303	303	287	279	280	237	189	251	332	345	394	325	238	277	227	225	265	1.065
上小阿仁村	28	23	25	24	21	15	14	14	12	15	14	14	15	14	9	8	5	5	5	5	0.154
藤里町	25	25	26	25	20	19	18	15	14	15	10	10	9	8	8	6	7	6	7	4	0.148
三種町	126	124	125	131	109	113	103	104	89	87	94	88	86	84	84	76	79	70	75	81	0.626
八峰町	60	X	X	61	X	54	X	45	38	X	37	35	34	36	32	21	25	31	31	31	0.512
五城目町	202	212	192	198	145	149	147	135	133	134	127	114	123	113	82	66	76	73	73	82	0.432
八郎潟町	45	43	54	47	46	44	42	32	36	28	29	24	23	37	31	28	25	26	25	24	0.487
井川町	136	147	142	138	116	116	123	108	101	96	96	106	125	127	121	88	85	85	88	91	0.716
大潟村	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	57	58	58	98	86	77	-
美郷町	201	211	191	201	235	222	239	218	209	208	207	205	195	199	167	137	136	115	113	119	0.663
羽後町	170	173	161	149	152	160	170	153	151	152	144	135	142	170	157	119	146	145	154	145	0.778
東成瀬村	16	18	15	14	12	12	11	X	6	5	6	X	X	X	5	4	2	1	2	2	0.124

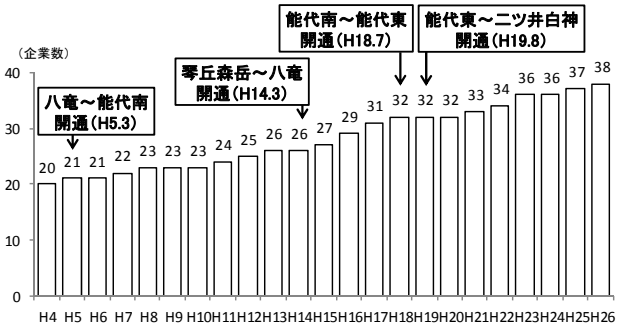
注）平成19年調査において調査項目を変更したことにより平成18年の数値とは接続しない
注）市町村別の値には秘匿値があるため各市町村合計と秋田県計の数値が一致しない場合がある。

出典：工業統計

2）工業団地への進出企業数

秋田県北地域の日沿道沿線3市について主な工業団地の進出企業数累計をみると、日沿道の延伸開通が進む能代市（能代工業団地）と大館市（大館・大館第二・二井田工業団地）では企業数が増加しています。

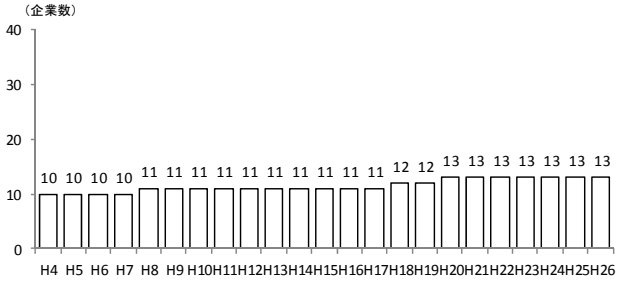
▼能代工業団地の進出企業数累計の推移



注）数値は「進出企業数の累計」でありその後撤退した企業もある（現在の企業立地数とは一致しない）

出典：能代市

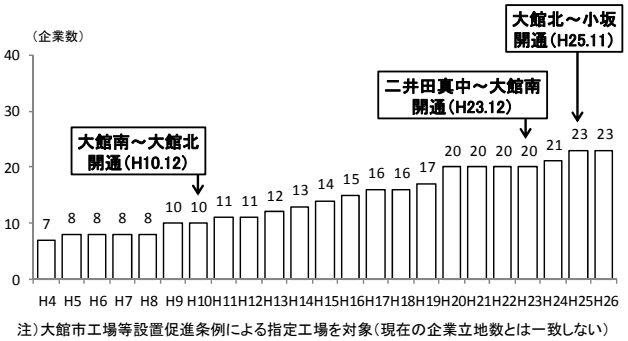
▼北秋田大野台工業団地の進出企業数累計の推移



注）数値は「進出企業数の累計」でありその後撤退した企業もある（現在の企業立地数とは一致しない）

出典：北秋田市

▼大館・大館第二・二井田工業団地の進出企業数累計の推移



注）大館市工場等設置促進条例による指定工場を対象（現在の企業立地数とは一致しない）

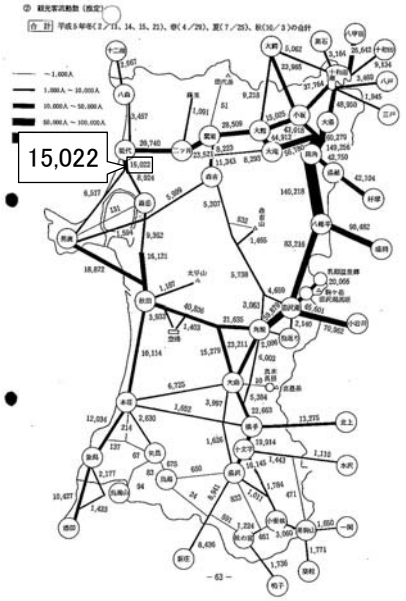
出典：大館市

3）観光客流動

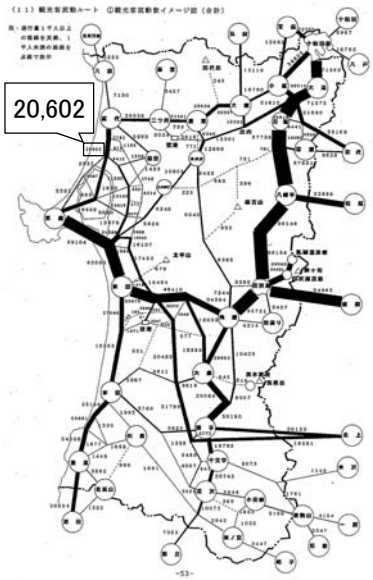
秋田市～能代市間の日沿道は、平成14年に能代南 IC まで、平成19年に二ツ井白神 IC まで開通しています。平成5年に 15,022 人だった八竜 IC～能代南 IC の観光客流動数（四季 1 ヶ月ごとの合計数）は、平成15年には 20,602 人（平成5年比 1.37 倍）、平成22年には 27,732 人（平成5年比 1.85 倍）に増加しています。

▼観光客流動ルート

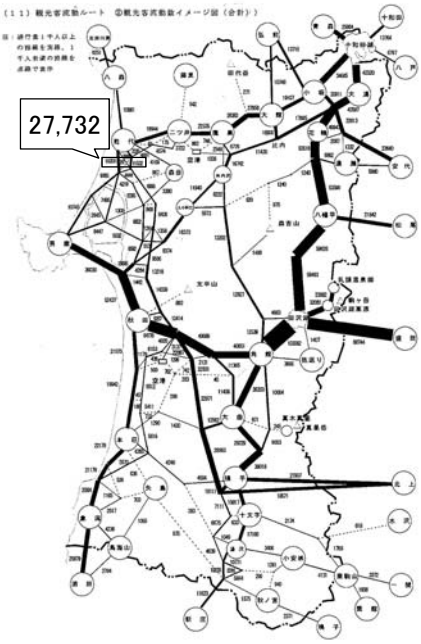
【H5】



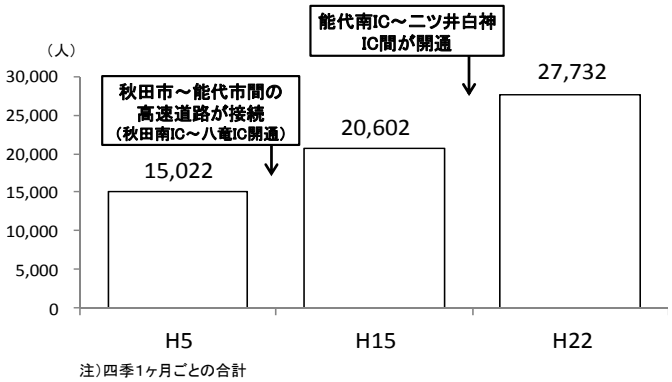
【H15】



【H22】



▼八竜 IC～能代南 IC 間の観光客流動数



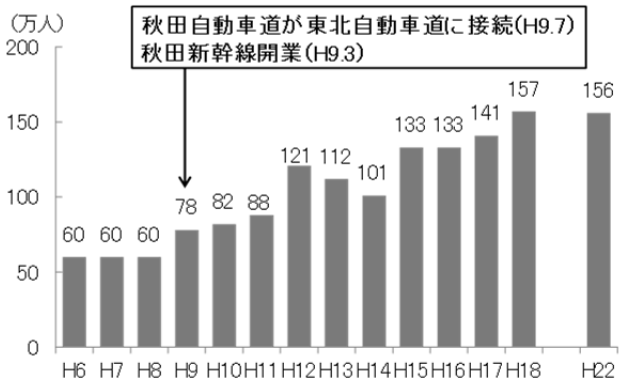
注）四季1ヶ月ごとの合計

出典：秋田県観光統計

（参考）角館桜まつりの観光入込客数

秋田県角館では、平成９年７月に秋田自動車道が東北道と接続後、角館桜まつりの観光入込客数が2倍の１５６万人（平成２２年）に増加しています。平成９年３月に秋田新幹線が開業していますが、新幹線の輸送能力からすると道路交通による来訪が圧倒的多数と考えられます。

▼ 角館桜まつりの観光入れ込み客数の推移



【角館桜まつり時の来訪交通手段】

●新幹線
約4万人（ 2%）

●観光バス
約55万人（35%）

●乗用車
約95万人（61%）

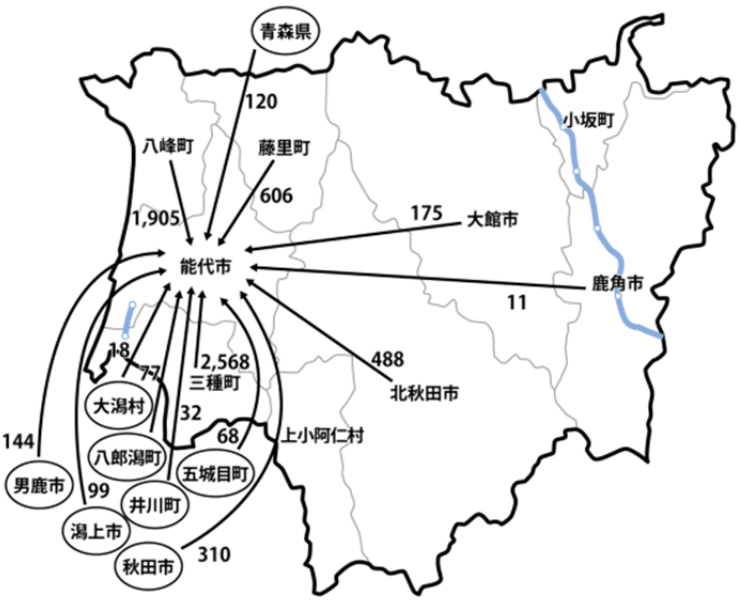
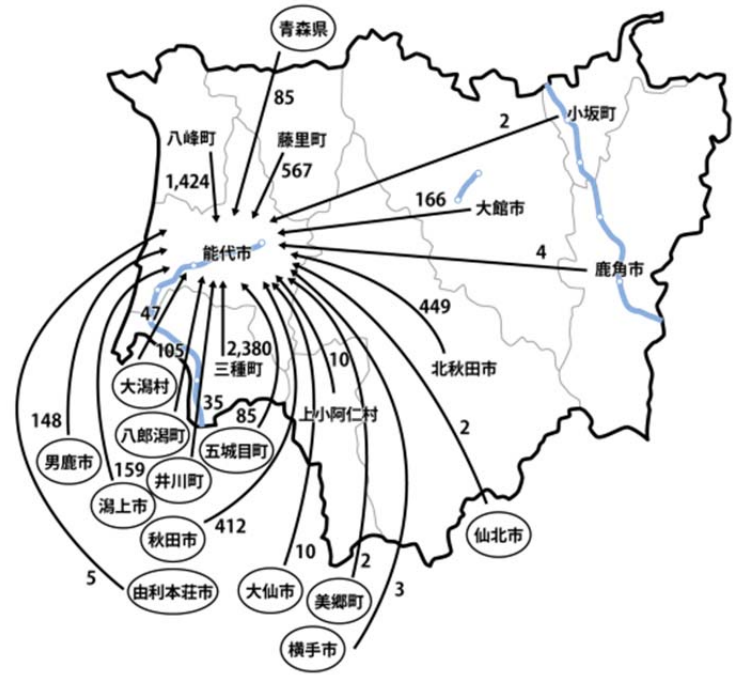
※H22来場者総数156万人で試算
・「新幹線」JR秋田支社GW入り込み記者発表を元に試算
・「観光バス」「乗用車」駐車場台数から入り込み客数を按分
・その他、秋田内陸縦貫鉄道 等による来訪者あり

出典：秋田県観光統計

4）通勤通学流動

平成１８年に秋田～能代（能代東 IC）間がつながった能代市では、秋田市をはじめ沿線からの通勤通学者が増加しています。さらに、能代市への通勤通学者は平成７年には秋田市が最南でしたが、平成２２年には由利本荘市や横手市からの通勤通学者があるなど、通勤通学流動が広域化しています。

▼能代市への通勤通学流動数　　（単位：人）

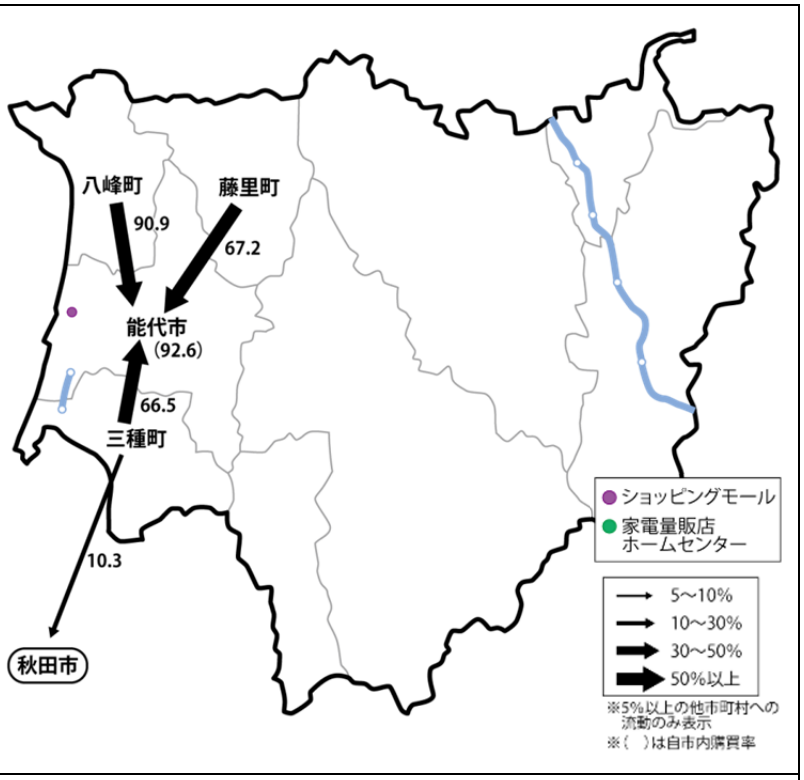
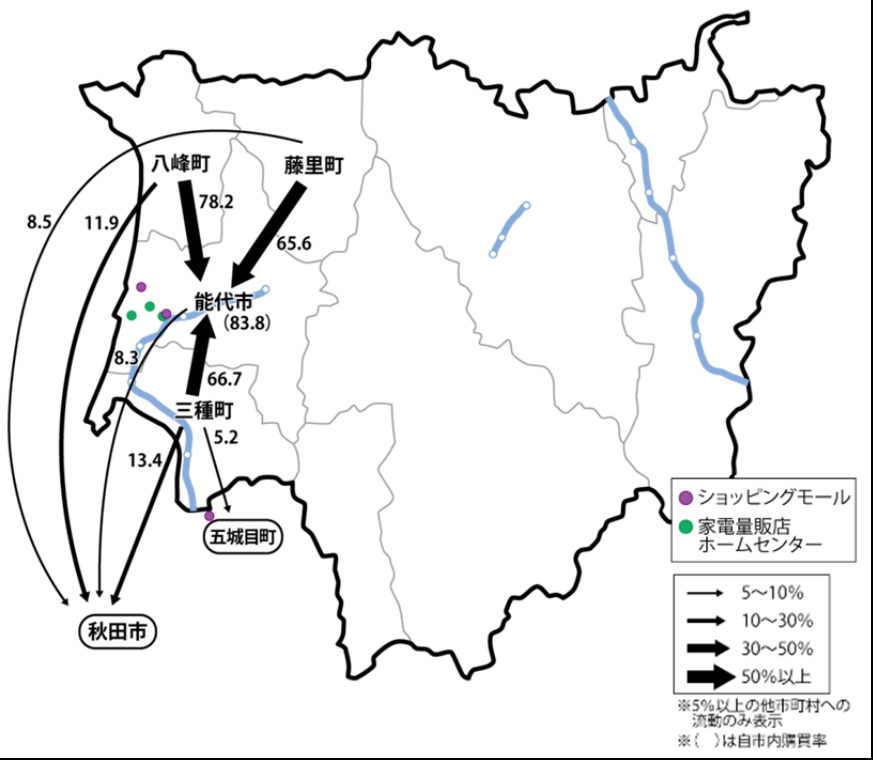
平成 7 年	
平成 22 年	

出典：国勢調査

5）買い物流動

能代山本地域4市町の買い物流動について平成7年と平成23年を比較すると、能代市が買い物中心地であることに変化はないものの、4市町とも秋田市への流動割合が増加しており、買い物行動は広域化しています。

▼他市町村への買い物流動割合（買回品）　（単位：%）

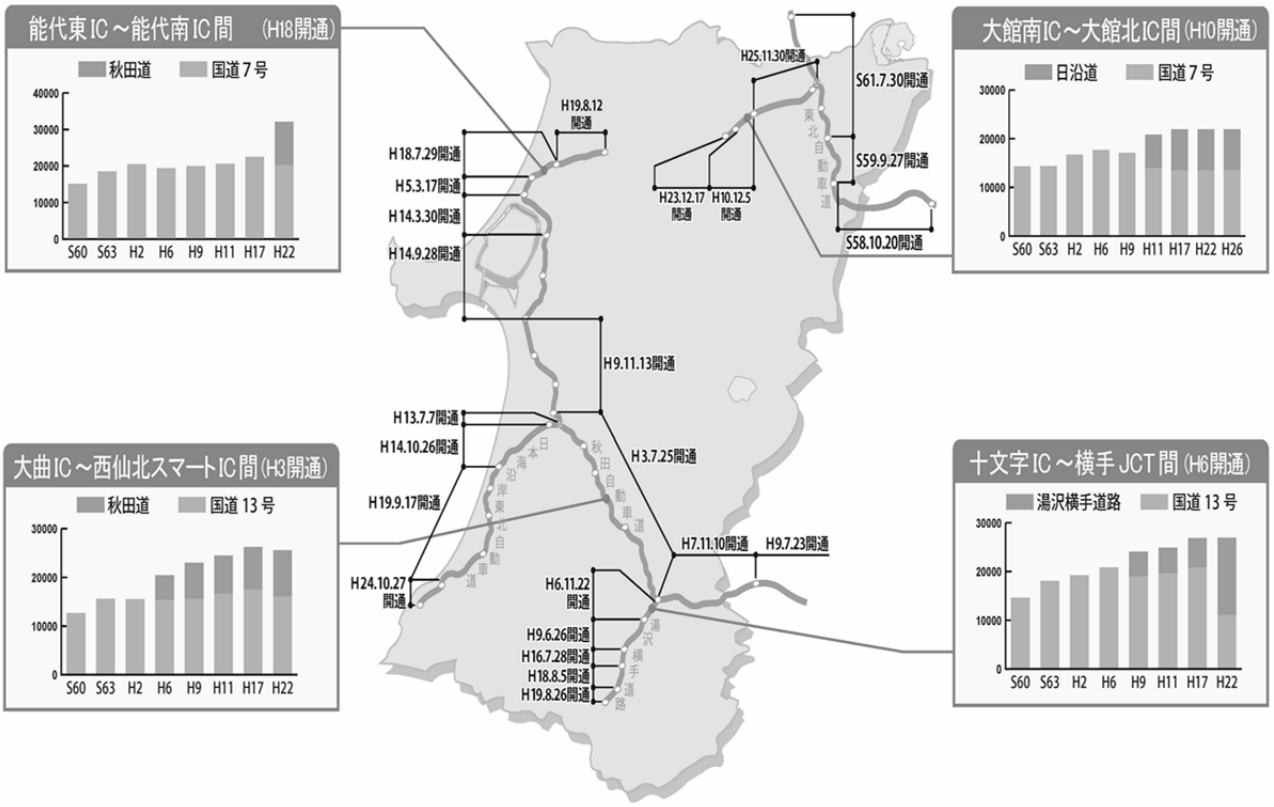
平成 7 年	
平成 23 年	

出典：消費購買動向調査、秋田県買い物動向調査

6）交通量

県内の主な高速道路 IC 間について、高速道路及び並行する国道の利用交通量の推移をみると、高速道路の開通により、交通が現道から高速道路に転換していること、また、高速道路本線の交通量と並行する国道と合わせた断面交通量が増加しており、より太い交通軸が形成されています。

▼高速道路及び並行する国道利用交通量の推移



出典：道路交通センサス

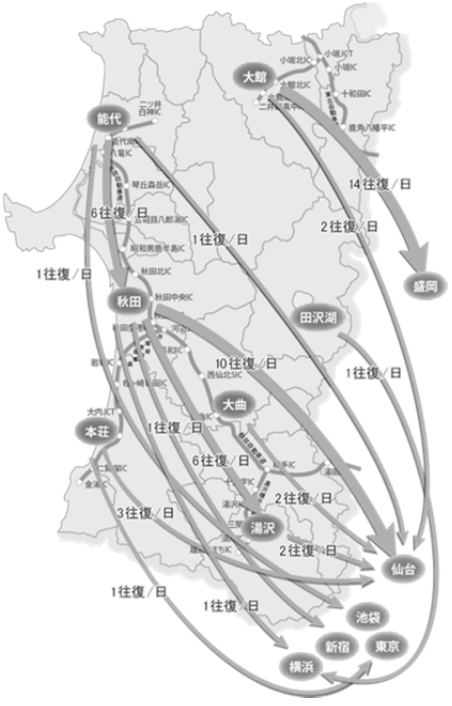
7）高速バス系統

秋田県内の高速バス系統数の推移をみると、平成 9 年度末には秋田道が東北道に接続し湯沢～北上線が運行開始、平成 14 年度末には昭和男鹿半島 IC～琴丘森岳 IC が開通し能代～秋田線が運行開始するなど、高速道路の延伸開通に伴い新規路線が運行開始しています。

▼秋田県の高速バス系統数の推移

年度	高速道路開通延長（km）	開通区間	高速バス新規路線
H7末	125	秋田岩手県境～横手IC	
H8末	125		
H9末	158	湯沢IC～十文字IC （北上西IC～湯田IC開通（秋田道が東北道に接続）） 秋田南IC～昭和男鹿半島IC	湯沢～北上線運行開始
H10末	163	大館南IC～大館北IC	
H11末	163		大曲～仙台線運行開始 大館～仙台線運行開始
H12末	163		
H13末	178	秋田空港IC～河辺JCT 琴丘森岳IC～八竜IC	
H14末	213	昭和男鹿半島IC～琴丘森岳IC 岩城IC～秋田空港IC	能代～秋田線運行開始 本荘～仙台線運行開始
H15末	213		
H16末	217	三関IC～湯沢IC	
H17末	217		
H18末	229	能代南IC～能代東IC 須川IC～三関IC	能代～仙台線運行開始
H19末	276	能代東IC～二ツ井白神IC にかほ市両前寺～岩城IC 雄勝こまちIC～須川IC	秋田～横浜線運行開始
H20末	276		
H21末	276		
H22末	276		
H23末	278	二井田真中IC～大館南IC	
H24末	286	金浦IC～にかほ市両前寺	
H25末	303	大館北IC～小坂JCT	

▼秋田県の高速バス運行路線（H25 年度末時点）



出典：図で見る東北の運輸

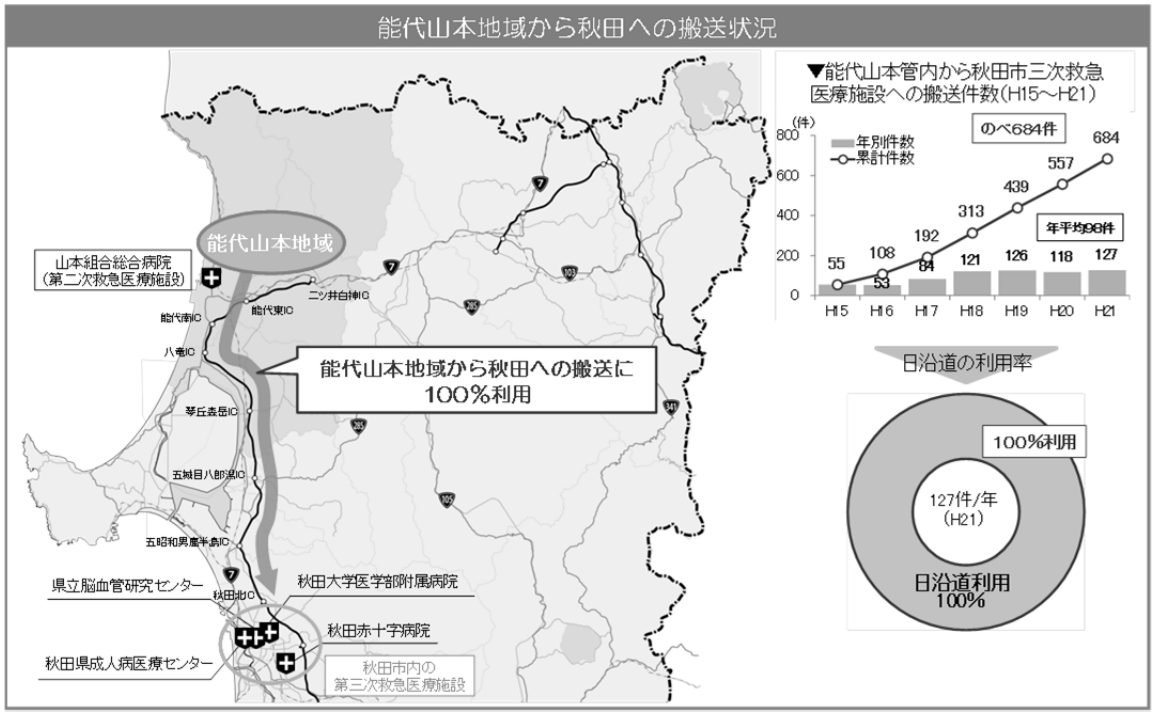
2．2地域に大きなインパクトをもたらしている開通効果

2．2．1直接効果

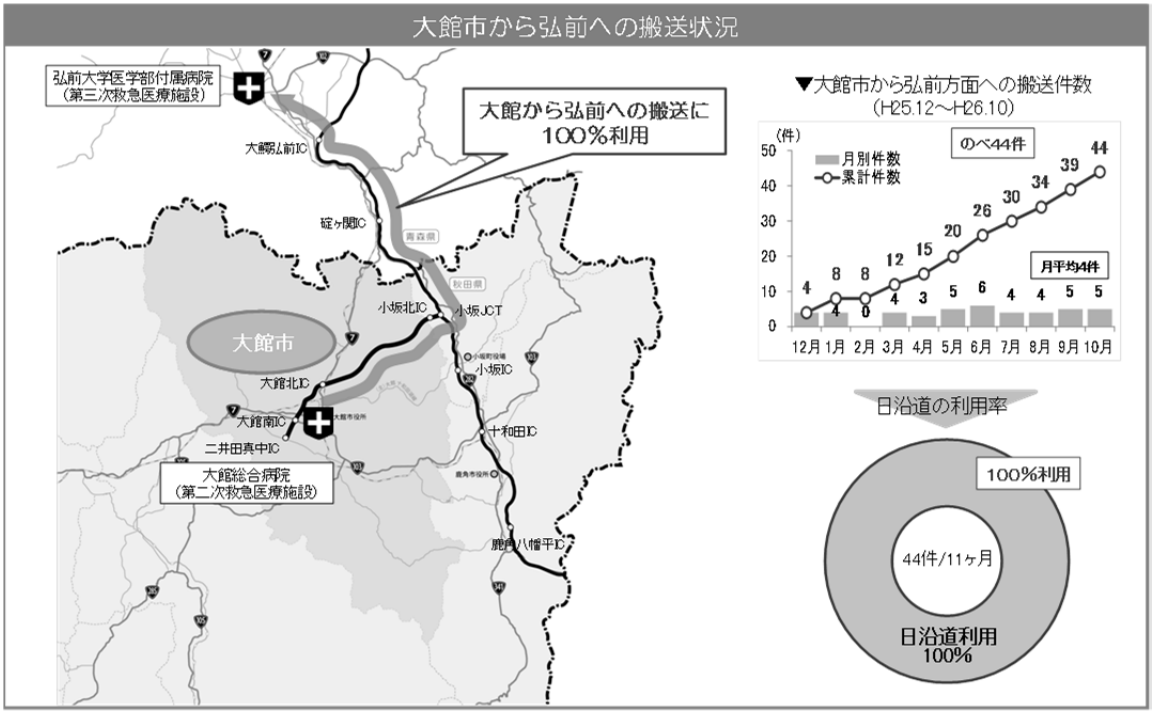
開通区間は県北地域の生活を支える生命線になっています。

1）三次医療施設への救急搬送ルート

県北地域には地域救命救急センターがないため、秋田市あるいは弘前市の第三次医療施設への救急搬送が必要になります。能代市や大館市からの域外三次医療施設への救急搬送は、開通区間が救急搬送ルートになっています。



出典：能代山本広域市町村圏組合消防本部

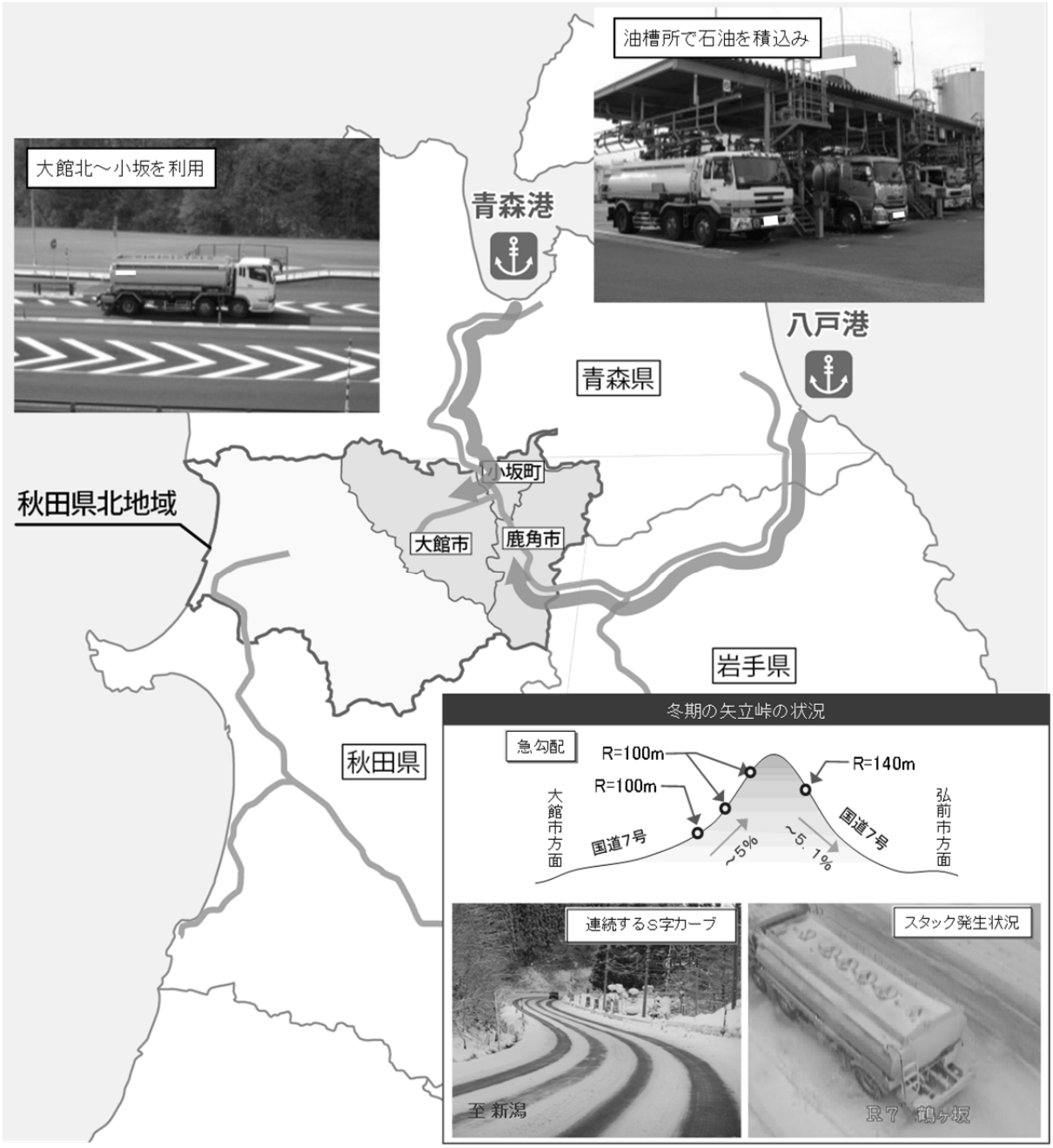


出典：大館市消防本部

2）県北内陸部への石油製品搬入ルート

ガソリンなどの石油製品は冬期生活の生命線です。県北内陸部への石油製品は、青森港や八戸港から国道7号矢立峠や狭隘で線形の厳しい国道103号を使って搬入されていましたが、平成25年11月に大館北小坂北間開通後は、開通区間が搬入ルートになっています

▼秋田県北内陸部への石油製品搬入状況



出典：大手石油元売及び青森県石油輸送業者ヒアリング結果

２．２．２間接効果

１）大館市における企業進出・設備投資

従前より様々な企業誘致の取り組みを進めてきた大館市では、平成23年度に日沿道大館北小坂北間の開通時期が公表されて以降、企業の進出や設備投資が急増しました。日沿道と東北縦貫道のダブルネットワークの形成や北東北主要都市の重心に位置する大館の立地条件を利点とする企業※1の進出や設備投資を受けて、これらの関連企業や関連産業の進出※2、さらには能代方面・あきた北空港方面の日沿道の延伸開通を見越した企業※3の進出によって、大館での産業集積の動きは現在も続いています。平成24～26年度の3年間で、33社が44事業所等を新増設し、この投資合計額は約339億円、直接的な経済波及効果は約674億円、パートも含めると369人の新たな雇用が生まれています。

※1 ニプロ㈱、㈱ファーマインド大館センター

※2 ニプロファーマ㈱（ニプロ㈱の関連企業）、㈱グリーンパッケージ（主にニプロファーマ㈱へ梱包用ダンボールを搬入）、秋田ウッド㈱（チップ材を燃料としてニプロファーマ㈱へ）、福山通運㈱（貨物運送業者）

※3 原木市場

▼大館市における企業誘致に関する取り組み

本市産業の特性である「環境・リサイクル産業」、「医療機器・医薬品産業」、「農林畜産業」関連のほか、「食品関連産業」などの更なる集積を主軸に据えた企業誘致活動を進めています。

○企業へのトップセールス
○誘致・立地済み企業及び地元企業への訪問、フォローアップ
○エコタウン事業のPR活動
○ふるさと会や企業誘致協力員からの情報収集と連携
○首都圏企業懇談会の開催
○県主催の企業懇談会(首都圏、関西圏の2回)への参加
○県主催の企業向けセミナー(首都圏、関西圏、中部地方の3回)への参加
○地方経済産業局及び県企業立地事務所への職員出向
○企業信用調査会社の情報の活用

▼大館市の優遇措置

工場等設置促進条例

必要要件 ： 投下固定資産　1，900万円超　　新規常用雇用5人以上

項　　目	条　　件	助成額等	限度額等
用地取得費助成金	大館第2工業団地用地取得 2万㎡超	5,000円／㎡以内 （予算の定めによる）	限度なし
操業開始時支援金	条例指定工場	従業員1人につき10万円	500万円
雇用奨励金	10人超の地元雇用	11人目から10万円／人	限度なし
障害者雇用奨励金	市内に住所を有する障害者を2年以上継続雇用	10万円／人	限度なし
緑地環境保全施設助成金	工場敷地25％以上の環境保全施設の設置	直接経費×1/3	200万円
福利厚生施設･除雪設備等助成金	操業開始から3年以内	直接経費×1/3	1,000万円
固定資産税課税免除	土地取得後1年以内の工場建設等	土地･建物･設備の課税免除	3年間

畜産農業施設等設置促進条例

必要要件 ： 投下固定資産　1，900万円超　　新規常用雇用5人以上

項　　目	条　　件	助成額等	限度額等
操業開始時支援金	指定畜産農業施設	従業員1人につき10万円	500万円
雇用奨励金	10人超の地元雇用	11人目から10万円／人	限度なし
障害者雇用奨励金	市内に住所を有する障害者を2年以上継続雇用	10万円／人	限度なし
福利厚生施設･除雪設備等助成金	操業開始から3年以内	直接経費×1/3	1,000万円
固定資産税課税免除	土地取得後、1年以内の工場建設等	土地･建物･設備の課税免除	3年間

空き公共施設等利活用促進条例

必要要件 ： 地域の活性化に寄与すること　新規常用雇用1人以上

項　　目	条　　件	助成額等	限度額等
減額譲渡	審査による	審査結果に基づき財産評価額に減額率を適用	下限 1/10
無償貸付･減額貸付	審査による	審査結果に基づき無償もしくは財産評価額に減額率を適用	減額時下限 建物 8/1,000 土地 4/1,000
事業開始時支援金	指定事業者	従業員1人につき10万円	50万円
増築及び改修助成金	操業開始から3年以内	直接経費×1/3	500万円
固定資産税課税免除	土地取得後、1年以内の工場建設等	土地･建物･設備の課税免除	3年間

平成26年8月 に大館市の空き公共施設活用の取り組みが全国地方分権優良30事例に選出されました

出典：大館市

▼大館市工業用水道事業

当事業の最大の特徴は、極めて良質で豊富な地下水を低価格で供給していることです。水質は上水道の水質基準もクリアできる程良質であるため、ユーザー側の処理コストが低く抑えられることにより、医薬品製造業や食料品製造業の企業進出があったものと考えています。

また、料金制度には節水などユーザーの企業努力が反映される従量制を採用し、基本料金や超過料金を設定していません。さらに大口ユーザーの使用料金を逓減させる制度により、企業の設備投資や使用水量の増加が容易となっています。

そのほか、配水管の分岐から量水器までの工事費を事業体で負担するなど、企業に有利な条件を揃えて立地環境を整えています。

＜ ユーザーの概要 ＞

業種	給水件数	実使用水量（立方メートル/日）
機械器具製造業	2	848
プラスチック製品製造業	2	89
食料品製造業	4	245
医薬品製造業	1	780
金属製品等製造業	5	14
道路貨物輸送業	5	9
その他	1	22
合　計	20	2007

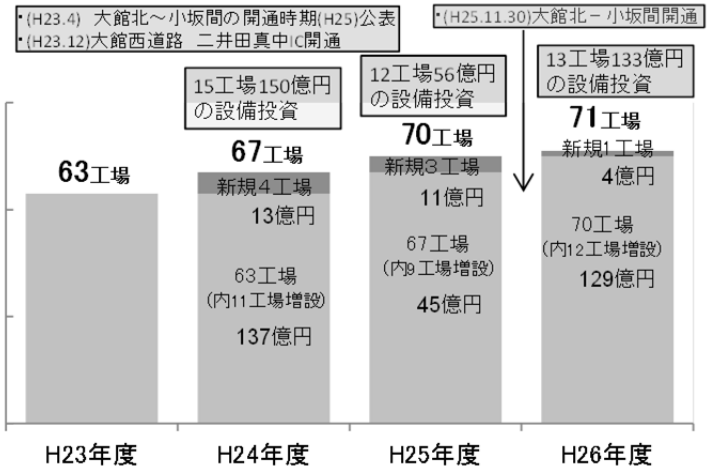
（平成19年3月末現在）

＜ 料金 ＞

使用水量の区分	単価（税抜）
10,000立方メートルまでの分	40円/立方メートル
10,001～20,000立方メートル	30円/立方メートル
20,001立方メートル以上の分	20円/立方メートル

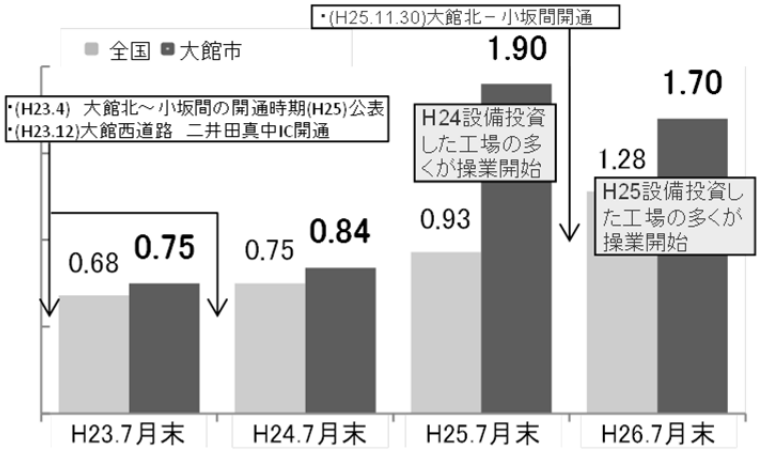
出典：大館市

▼大館市の主な工場数と設備投資額の推移



出典：大館市

▼高卒者求人倍率の推移



出典：大館市、厚生労働省

▼日沿道の整備状況と大館市企業誘致の動き（平成 24～26 年度）

日沿道の整備状況と平成 24 年度大館市企業誘致の動き

◇大館市管内の日沿道の整備状況

平成２３年度	大館西道路 二井田真中 IC～大館南 IC が供用
平成２５年度	大館西道路の残り区間　および 日沿道 大館北 IC（仮）～小坂 JCT（仮）が供用予定

◆その動きに合わせるように・・・・

平成 24 年度、大館市では **１２社 １５工場**（事業所）を新増設・改装する動きがありました。その投資額は合わせて**約１５０億円**、直接的な経済波及効果は**約３０４億円**にのぼります。
また、パートを含む **計１４４人（将来的には２５３人）**の**新規雇用**があり、新たな地域雇用を生み出しています。

①	福山通運㈱	⇒ 福山通運グループ『東北王子運送㈱ 大館営業所』の新設。投資額 約２億 5,000 万円。
②	㈱木村食品工業	⇒ カット野菜加工の『野菜パック工場』の増設。投資額 約 4,100 万円。
③	ニプロ㈱	⇒ 人口肺関連の研究・開発の『第六工場』を増設。投資額 約 35 億円。
④	㈱東北センバ	⇒ 『大館工場』の建設。グループの新たな製造拠点となる。投資額 約 24 億円。
⑤	ニプロファーマ㈱	⇒ 『抗がん剤棟』『バイオ製剤棟』『物流棟』『試作試験棟』増設。投資額 約 72 億円。
⑥	㈱グリーンパッケージ	⇒ ダンボール製造を行う『大館工場』の新設。投資額 約３億１,５００万円。
⑦	㈱サンテックス	⇒ 既存施設を『比内ファクトリー』へ改装、倉庫新設。投資額 約 5,800 万円。
⑧	トヨタＬ＆Ｆ 秋田㈱	⇒ 『大館店』を移転新築。平成２５年業務開始予定。投資額 約 9,500 万円。
⑨	㈱シムコ	⇒ 『大館 GGP センター』を新設、豚舎８棟等で操業開始。投資額 約６億４,０００万円。
⑩	昭和木材㈱	⇒ 『東北支店・東北プレカット工場』として操業開始。投資額 約 7,000 万円。
⑪	三菱重工業㈱	⇒ 名古屋推進誘導システム製作所『田代試験場管理棟』を更新。投資額 約３億円。
⑫	㈱フレックス	⇒ 倉庫を『第三工場』に改装。Ｖカット加工ドア設備導入。投資額 約 8,400 万円。

日沿道の整備状況と平成25年度大館市企業誘致の動き

H26.2 現在

◇大館市管内の日沿道の整備状況

平成25年度　日沿道 大館北ＩＣ～小坂ＪＣＴ間が供用（11月30日）
平成28年度　日沿道 二井田真中ＩＣ～鷹巣ＩＣ（仮）間が供用予定
平成29年度　日沿道 鷹巣ＩＣ（仮）～あきた北空港（仮）間が供用予定

◆その動きに合わせるように・・・・

平成２５年度、大館市では１０社１２事業所が工場等を新増設する動きがあり、その投資額は、合わせて約５６億円、直接的な経済波及効果は約１１８億円と見込まれます。また、パートを含め６３人の新規雇用が計画されております。

◆さらに、新たな基盤整備の取組状況は・・・・

平成２５年度　大館市営釈迦内工業団地　２１ha 中、5ha の造成完了を予定
平成２７年度　県営大館・大館第二工業団地合わせて　２３ha の拡張完了を予定

① ㈱プレシジョン・システム・サイエンス ⇒ DNA自動抽出装置用試薬の製造・開発の『大館試薬センター』の新設。投資額約４億２，８００万円。
② 秋田ウッド㈱ ⇒ 木材・プラスチック再生複合材の『製造設備増強工事』を実施。投資額約１億３，０００万円
③ 秋田原木市場㈱ ⇒ 市営釈迦内工業団地での『木材流通センター』の新設。投資額約２億７，０００万円
④ 北秋容器㈱ ⇒ 未利用木材を原料とする『大館釈迦内チップ工場』の新設。投資額約３億６，０００万円。
⑤ ㈱ニプロファーマ ⇒『ホルモン製剤棟』、『木質バイオマスボイラー棟』の増設。投資額約３２億円３，０００円。
⑥ 遠藤林業㈱ ⇒ 大館工場に原木及び製材を加工する『大館第二工場』を増設。投資額約４億３，８００万円。
⑦ 自然電力㈱ ⇒ 出力 1,900kw の『太陽光発電施設（メガソーラー）』の新設。投資額約５億８，０００万円。
⑧ グリーン白神 ⇒ 市管理の雪沢温泉の温泉水を活用した『どじょう養殖場』の新設。投資額約７，５００万円。
⑨ 秋田比内や㈱ ⇒ 旧葛原保育所を改装し、本社と『きりたんぽ等製造工場』の移転。投資額約１億２，０００万円。
⑩ ㈱東北センバ ⇒ 原材料のヤマイモ等の皮むきを行う『越山作業所』『白沢作業所』の新設。投資額約１，４５０万円。

≪お問い合せ先≫
大館市 産業部 商工課 経済振興係
ＴＥＬ：０１８６－４３－７０７１

日沿道の整備状況と平成26年度市内設備投資の動き

公表資料　H27. 2. 26 現在

◇大館市管内の日沿道の整備状況

平成25年度　日沿道 大館北ＩＣ～小坂ＪＣＴ間が供用（11月30日）
平成28年度　日沿道 二井田真中ＩＣ～鷹巣ＩＣ（仮）間が供用予定
平成29年度　日沿道 鷹巣ＩＣ（仮）～あきた北空港（仮）間が供用予定

◆その動きに合わせるように・・・・

平成２６年度、大館市では１１社が１３事業所を新増設する動きがあります。その投資額は、合わせて約１３３億円、直接的な経済波及効果は約２５２億円と見込まれます。また、パートを含め１６２人の新規雇用が計画されております。

◆さらに、新たな基盤整備の取組状況は・・・・

平成２５-２７年度　市営釈迦内産業団地の整備拡充
平成２９年度　県営大館・大館第二工業団地 ２３haの拡張完了を予定

① エコシステム秋田㈱ ⇒『低濃度PCB廃棄物処理・金属資源リサイクル工場』の増設。投資額約２８億円。
② ニプロ㈱ ⇒ 金型製造・保守として『マシニング・モールド棟』の増設。投資額約１．５億円。
③ 石垣鐵工㈱ ⇒ 工場敷地内に『製作工場棟、設計・事務所棟』を増設。投資額約５．６億円。
④ 昭和木材㈱ ⇒『東北プレカット第二工場』の増設。投資額約２．８億円。
⑤ ㈱東北センバ ⇒ 小学校を改装し、山芋等の皮むきを行う『三岳作業所』を新設。投資額約８２０万円。
⑥ ㈱アオキ ⇒ 生地の自動裁断として『CAD･CAMシステム』を増強し、工場を増設。投資額約０．７億円。
⑦ ニューロング秋田㈱ ⇒ 工場内のライン配置換え等に伴い『製造工場』の増設。投資額約２億円。
⑧ 戸田精工㈱ ⇒ 新館工業団地内の旧成光製作所の工場を取得し、『移転増改築』。投資額約１億円。
⑨ ニプロ㈱ ⇒ 国内外の需要増大のため『ダイアライザ製造ライン及び第６工場』の増設。投資額約７８億円。
⑩ ㈱東北センバ ⇒ 市場の需要拡大と新商品開発のため『冷凍和菓子製造ライン』を増設。投資額約４億円。

太陽光発電施設

⑪ ㈱バイテック ⇒ 二井田工業団地隣接地に１．５MW規模の『太陽光発電施設』の新設。投資額４億円。
⑫ 扇建設㈱ ⇒ 比内町笹館地内に０．８MW規模の『太陽光発電施設』を新設。投資額約２億円。
⑬ 藤和建設㈱ ⇒ 赤川地区の遊休地に１MW規模の『太陽光発電施設』を新設。投資額約３億円。

出典：大館市

2）秋田県北地域のリサイクル産業の発展

「秋田県北部エコタウン計画」のもと、鉱山関連基盤を活かした家電リサイクルやリサイクル製錬拠点形成、林業からの廃木材と廃プラスティックを活用した新建材製造、石炭火力発電所からの石炭灰と廃プラスティックを活用した二次製品製造など、県北部9市町村の地域資源を活かし地場産業が連携して環境・リサイクル産業の創出に取り組み、環境・リサイクル関連企業の製造品出荷額は毎年堅調に増加しています。特に、日本国内のみならず東南アジアからも携帯電話等廃棄物を集荷した有価金属のリサイクルは、日本のレアメタルの自給向上と国際供給リスクの低減に貢献しています。日沿道は、秋田港など廃材等原材料の集積地と県北の環境・リサイクル企業所在地とを結ぶルートとして、また、互いに連携して事業展開している県北の環境・リサイクル企業所在地間を結ぶルートとして、県北のリサイクル産業の発展を支えています。

▼エコタウン計画とは

秋田県北地域は、かつて国内有数の鉱山地帯として発展してきました。エコタウン計画は、鉱山や製錬所の技術・インフラを活用した金属リサイクル事業を皮切りに、林業や農業、建設業、木材製品製造業等から排出される廃棄物を有効活用する新しいリサイクル事業を実施することにより、県北部 9 市町村の地域産業が連携した新しい資源循環を目指しています。

▼主要事業

【工業関連】

〇家電リサイクル事業

北東北3県から集められた家電リサイクル法の4品目や廃OA機器の分解・再資源化を行っています。リサイクルの過程で発生した基板等はグループ会社の製錬原料として再利用し、冷蔵庫の断熱材フロンなども回収・分解を実施しています。

事業主体 （株)エコリサイクル

〇リサイクル製錬拠点形成事業

県北地域を多種多様な非鉄金属のリサイクル拠点として確立するため、小坂地区の製錬所などのリサイクル関連基盤の強化を進めています。これまで処理困難だった OA 機器、パソコン、廃家電などの廃電子基板（非鉄金属低含有プラスチック）及び自動車破砕屑などから有用金属を回収する金属蒸気回収炉を整備しています。

事業主体 エコシステム小坂(株)

【林業関連】

〇廃プラスチック利用新建材製造事業

秋田県内の基幹産業である林業で発生する間伐材、木材加工業の切粉屑、木質建設廃材と、各種工場から排出される廃プラスチックを成型加工し、新しい木質素材を製造しています。この木質新素材は、天然木に極めて近い木質感で、しかも天然木よりも優れた耐久性、耐水性、耐候性を兼ね備えており、フローリングやデッキ、ベンチ等、様々な用途に利用されております。

事業主体 秋田ウッド(株)

【火力発電所関連】

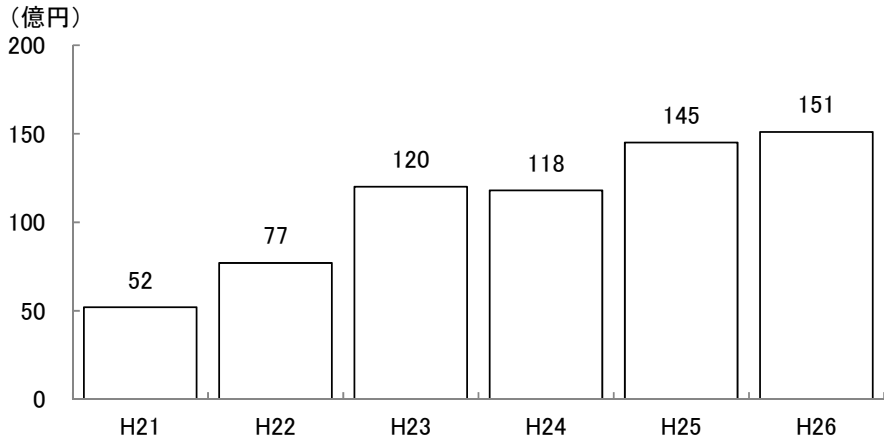
〇石炭灰・廃プラスチック活用二次製品製造事業

東北電力の能代火力発電所から発生する石炭灰（フライアッシュ）と家庭から発生する容器包装プラスチック・産業廃棄物の廃プラスチック（PE や PP など）を混練し、新素材「エコプラッシュ」ペレットを製造します。製造されたペレットは、大型低圧射出成型機で成型され、コンクリート製品やプラスチック製品の代替製品に成形しております。

事業主体 秋田エコプラッシュ(株)

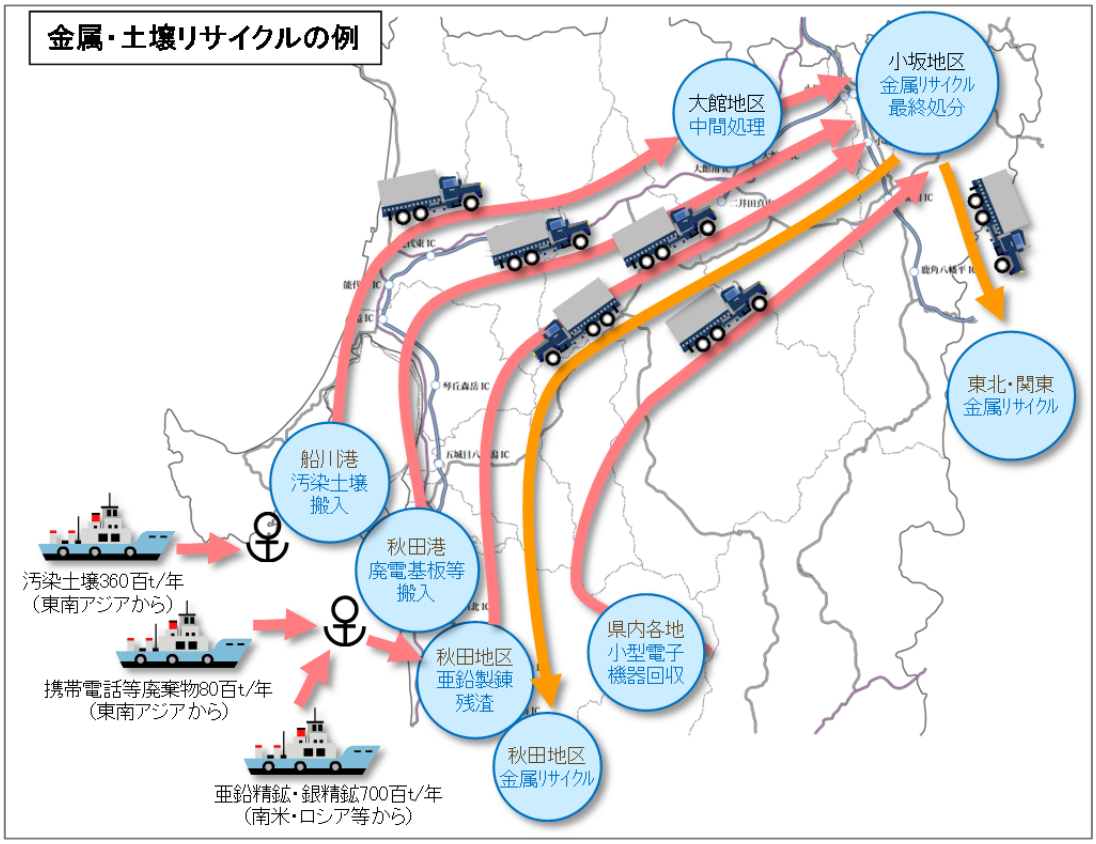
出典：あきたエコタウンセンターHP

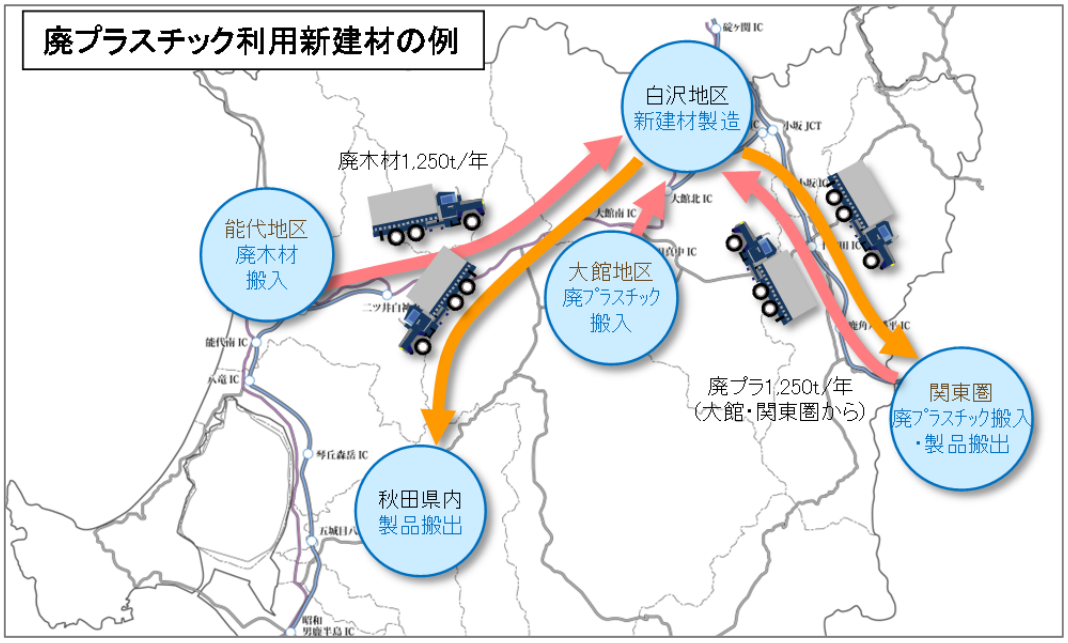
▼秋田県の環境・リサイクル関連企業の製造品出荷額

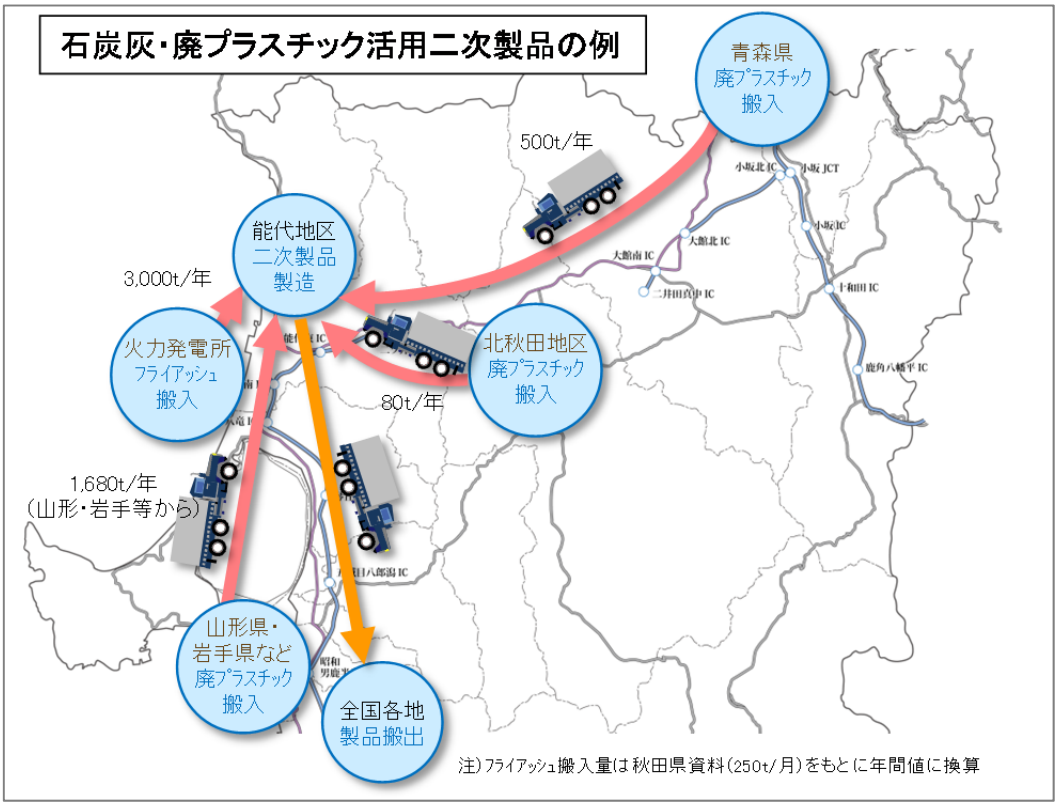


出典：秋田県資源エネルギー産業課調査

▼リサイクル資源の搬出入ルート







出典:秋田県資料及びリサイクル関連企業ヒアリング結果

▼小坂製錬㈱のレアメタル

小坂製錬㈱は、過去 1 世紀に渡る黒鉱（複雑硫化鉱）製錬で培ってきた技術を活かし、廃電子基板やスクラップ類などのリサイクル原料から、レアメタルの他、金・銀・銅などの非鉄金属を回収しています。

2007 年にはリサイクル原料への対応力をさらに高めた TSL 炉と呼ばれる新型製錬炉が完成し、金・銀・銅・鉛を始めとするベースメタルから、ビスマス、インジウム等のレアメタルに至るまで、多種類の有価金属の高率回収を実現しています。

現在、廃電子基板は国内のみならず東南アジア等からも集荷しており、その搬入量は 2,400t/月にのぼります。日本でレアメタルと指定されている金属 31 種類うち、「国家備蓄 9 鉱種」に選定されているインジウム、ガリウム（亜鉛副産物からの生産）については、小坂製錬㈱を含む DOWA グループが国内唯一の生産企業であり、日本のレアメタル自給向上とグローバルな循環型社会の実現に貢献しています。

▼レアメタルの分類

出典：メタルマイニングデータブック

▼インジウム・ガリウムの生産量

鉱種	国内生産量（2013年）	国内主要企業	主な用途
インジウム新地金	71純分t	秋田レアメタル㈱のみ（国内シェア100%）	FPDの透明電極向けのITOターゲット
ガリウム新地金（亜鉛副産物からの生産）	8純分t	DOWAエレクトロニクス㈱のみ（国内シェア100%）	化学物半導体材料（高周波デバイスやLED等の光デバイス）

出典：鉱物資源マテリアルフロー2014

3. これからの日沿道開通を最大限活用した地域展開方策の立案、実行に向けて

3. 1これまでの開通効果の整理・分析結果から見える地域展開方策の方向性

開通沿線地域の変化を見れば、産業面や広域観光面で特に大きな変化が現れています。今後の日沿道の開通を見据え、特に産業面や広域観光面で県北地域が連携して施策や取り組みを展開し、これまで以上に大きな相乗効果の発揮を目指します。このとき、

①地域の特性や資源を武器にする

②あらゆる階層で連携して取り組む

③能代港や大館能代空港も含めた県北社会資本ストックを総活用する

ことで、「企業がここに進出したい理由」や「観光客がここに来て滞在したい理由」を生み出していきます。

また、日沿道開通地域では、通勤通学や買い物といった日常諸活動の広域化が現れています。このことは、例えば、日沿道開通により、秋田県のセールスポイントである教育を武器に、「子供は秋田県、親は単身赴任」というような新しい住まい方の提案も可能になることを示しています。定住人口や交流人口の拡大にも着眼していきます。

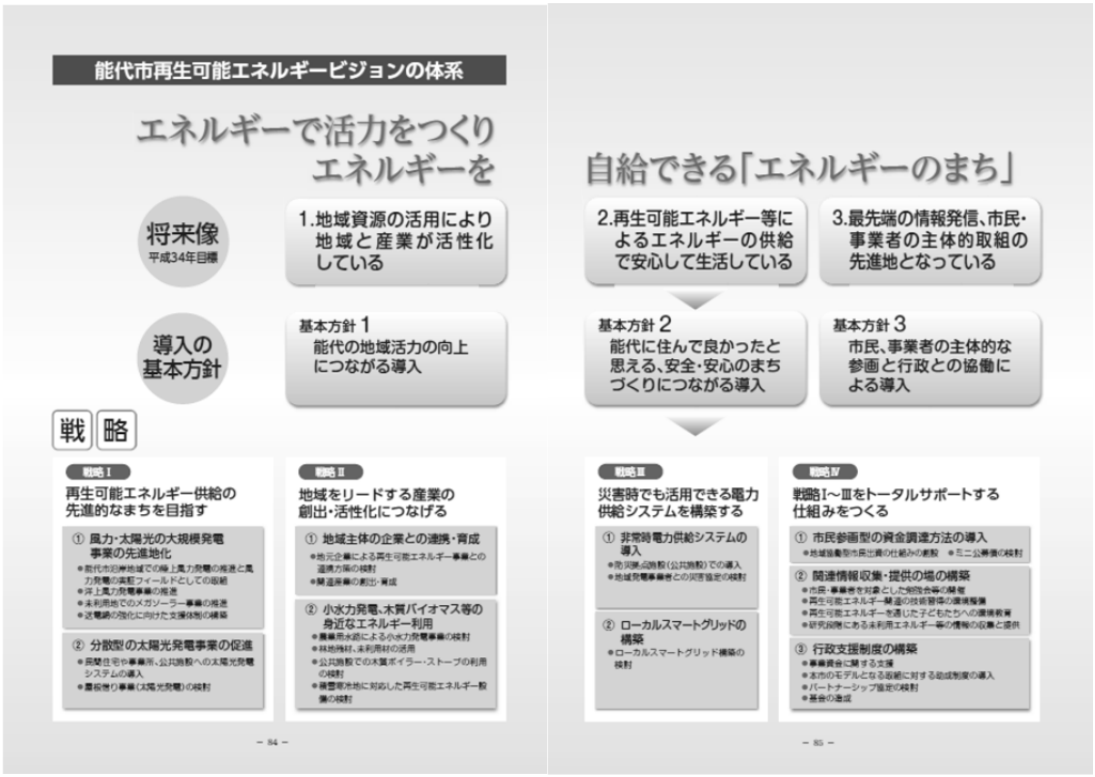
今後の意見交換会では、上述のような着眼のもとで、日沿道開通を最大限活用した地域展開方策の立案、実行に向けて取り組みます。

3．2既に始まっている新たな地域展開

1)『エネルギーのまち』の構築(能代市)

能代市では、再生可能エネルギーのポテンシャルを活かして、「エネルギーで活力をつくり、エネルギーを自給できる『エネルギーのまち』」を目指す中、再生可能エネルギーで災害時でもとまらない電力供給システムを構築して安全で安心して生活できるまちづくりにも取り組もうとしています。今後の日沿道の開通を見据えると、「災害時でもとまらない電力」+「日沿道」+「能代港」+「大館能代空港」をセットにして安全性信頼性と利便性を兼ね備えた事業環境としてセールスが可能となり、新たな産業創出や企業立地につなげていくことができます。

▼能代市再生可能エネルギービジョンの概要



出典:能代市再生可能エネルギービジョン(平成 25 年 3 月)

▼能代市エネルギー関連事業の動向

分類	事業者	概要	運転開始
風力発電	東北自然エネルギー開発㈱	24基(600kW)	H13.11運転開始
	㈱日立パワーソリューションズ	2基(600kW)	H14.12運転開始
	米代川風力発電㈱	2基(1,990kW)	H25.12運転開始
	能代パワー発電㈱	2基建設中(1,990kW級)	H27.10運転開始予定
	風の松原自然エネルギー㈱	17基建設中(2,300kW級)	H28.11運転開始予定
	丸紅㈱	16基計画中(5,000kW級)	H33年度運転開始予定
	㈱日立パワーソリューションズ	メンテナンスセンターの建設(現サービスセンターの拡充)	H28.12稼働開始予定
メガソーラー	中田建設㈱	1,000kW	H26.8運転開始
火力発電	東北電力㈱ 能代火力発電所	1号機(60万kW)	H5.5運転開始
	東北電力㈱ 能代火力発電所	2号機(60万kW)	H6.12運転開始
	東北電力㈱ 能代火力発電所	3号機計画中(60万kW)	H32年度運転開始予定

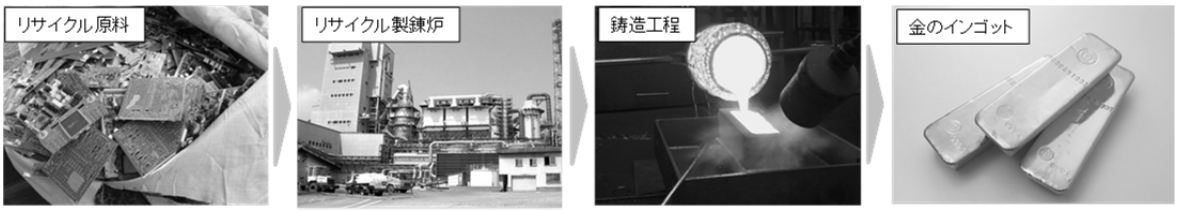
出典:能代市

2）東京オリンピック・パラリンピック授与メダルへのリサイクル回収金属の活用提案（大館市）

平成27年5月、小型家電リサイクル法で定める認定事業者が所在する東北3市（大館市、八戸市、一関市）で、リサイクル回収金属を東京オリンピック・パラリンピックのメダルに使う提案を3市連携して国や組織委にしていくことを決定しました。このような提案は、日沿道をはじめ、北東北三県での広域回収を支える道路ネットワークがあるからこそ可能な展開です。

▼大館市ホームページ

▼金属リサイクルの流れ（イメージ）



出典：小坂製錬(株)

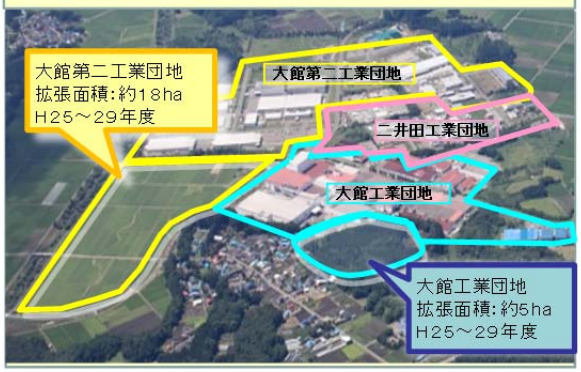
3）新たな企業進出・設備投資の受け入れ環境整備（工業団地拡張）（大館市）

企業進出や設備投資が続く大館市では、平成27年2月に大館第二工業団地が完売となり、隣接3工業団地（合計 100ha）がすべて完売しました。大館市では、平成25年度より大館北 IC 隣接地に市営釈迦内産業団地の造成を進めているほか、秋田県でも、平成25年度より大館・大館第二工業団地の拡張（23ha）に着手しています。

▼大館市工業団地拡張・新設の状況

【釈迦内産業団地】
・全体面積　約26**ha**
・H25年度からオーダーメード方式で造成中

【大館工業団地】
・全体面積　約33**ha**（S62年度完売）
・H25年度から約5**ha**の拡張中
【大館第二工業団地】
・全体面積　約48**ha**（H26年度完売）
・H25年度から約18**ha**の拡張中
【二井田工業団地】
・全体面積　約19**ha**（H20年度完売）



出典：大館市

4)台湾からの誘客への取り組み（大館市）

・大館市の台湾への観光誘客セールスにおいて、「秋田犬」、「きりたんぽ鍋」、「森吉山の樹氷」、「白神山地」など秋田県北部が誇る資源や宝のニーズが高い。
日沿道の開通を見据え、あきた北空港を基軸とした観光ルートの提案が可能になるため、広域連携に取り組むことができます。

5）定住・交流の拠点化（北秋田市）

・鷹巣大館道路で北秋田市と大館市が結ばれれば、大館市の工業団地への時間が大幅に短縮されます。北秋田市に住み、大館市で働くことを見据え、定住促進に向けた住みよい街づくりを進めていきます。
今後、日沿道が繋がれば、あきた北空港 IC に近接する北秋田市民病院で高度医療技術を持つ医師により、県内などの若手医師の育成が可能になります。